News Letter　2017.9.20　第 75 号

たちばな

京都大学男女共同参画推進センター
Gender Equality Promotion Center

平成 29 年度 2 期研究・実験補助者雇用制度　利用者決定

平成 29 年度 2 期研究・実験補助者雇用制度の利用者は、16 名（女性 11 名、男性 5 名）の方に決まりました。

研究・実験補助者雇用制度とは出産・育児・介護等で、十分な研究・実験時間がとれない研究者に対し、研究又は実験業務（注：教育関係の業務は支援対象外）を補助する者の雇用経費を負担するものです。募集は、年 2 回（6 月、12 月）です。本事業は、女性研究者に限らず、男性研究者も対象となります。また、研究分野の文系・理系は問いません。補助者未定でも申請できます。

「女子高生・車座フォーラム 2017 」12 月 23 日（土・祝）に開催

京都大学男女共同参画推進センターでは、京都大学の研究者や科学者の仕事を知ってもらおうと「女子高生・車座フォーラム 2017　京都大学を知ろう・研究者と語ろう」を企画しました。

京都大学がどんなところなのか、大学ではどんな勉強や研究をするのか、また大学卒業後の進路にはどんなものがあるのか、などなど、さまざまな疑問に教員や大学院生、学生がお答えします。

日　　時　2017 年 12 月 23 日（土・祝）10 時～17 時
会　　場　京都大学国際科学イノベーション棟、他
参 加 費　無料
募集定員　女子高校生 100 名程度（先着順）
　　保護者 50 名程度
申込方法　男女共同参画推進センターホームページより

http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/

申込期間　2017 年 9 月 25 日（月）～11 月 24 日（金）

日経ウーマノミクスフォーラム「ダイバーシティ研究環境整備と女性研究者の未来」

5 月 29 日（月）、大阪府立国際会議場にて、日経ウーマノミクスフォーラム「ダイバーシティ研究環境整備と女性研究者の未来」が開催され、本学からは、稲葉カヨ理事・副学長、船曳 康子大学院人間・環境学研究科准教授、学生数名が参加しました。

船曳准教授が登壇したパネルディスカッションでは、関西 10 大学や企業の研究現場で働く女性研究者の経験や実情が語られるとともに、これから研究者を目指す若い後輩たちへのメッセージが贈られました。

当日は、高校生をはじめとして 350 名の参加があり、満員となった会場では、参加者が女性研究者たちの生の声に耳を傾けました。

フォーラム後に関係者が集まった交流会では、本学から参加の修士課程学生ほか、各参加大学の学生がフォーラムの感想や将来の夢についてスピーチを行い、参加者は和やかな雰囲気の中で交流を深めました。

男女共同参画推進センターでは、子育てと仕事や研究の両立支援を目的とした様々な取り組みを行っています。詳細、利用方法については、センターホームページをご覧ください。http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/ikuji_kaigo

保育園入園待機乳児保育室

学生、研究者の学業、研究と育児の両立を支援することを目的とし、「保育園入園待機乳児のための保育施設」を設けています。この保育施設は、現在、保育園の入園待ちを余儀なくされている研究者等を対象とします。

開室期間	平成 29 年 4 月 5 日～平成 30 年 3 月 30 日
開室日時	月曜日～金曜日　9：00～18：00 （時間外保育は、8：00～9：00 及び 18：00～20：00 までとし、別途利用料が必要です。）
保育場所	京都大学男女共同参画推進センター内
利用資格	京都大学に所属する学生、常勤の教員、研究員（週 30 時間以上勤務、日本学術振興会特別研究員を含む。）、医員。
対象乳児	生後 9 週目～ 15 ヶ月未満の健康な乳児
定　　員	4～5 月：3 名、6 月～8 月：6 名、9 月～翌 3 月：18 名

病児保育室「こもも」

病児保育室「こもも」は、京都大学教職員・学生の子どもが、病中・病後のため幼稚園・保育園・学校へ登園・登校できない時、親が仕事や研究を休むことなく、子どもの保育ができる環境を提供する施設です。病児保育室では、京都大学医学部附属病院と連携し、看護師・保育士が常駐する安心できる環境において、病児の保育を行います。

保育場所	京都大学医学部附属病院外来棟 5 階 ※東玄関（東大路通沿い）から入ってすぐ右にあるエレベーターで 5 階です。
対 象 者	生後 6 ヶ月～小学校 3 年生までの病中・病後の子ども
利用資格	京都大学教職員及び学生
定　　員	5 名（隔離室を含む）

開 室 日	月曜日～金曜日
開室時間	7：30 ～ 19：00
利用料金	子ども 1 人につき、1 時間あたり 500 円（昼食・おやつ代を含みます） ※保護者が学生の場合は、保育料金の半額を大学が負担します。
保育体制	看護師、保育士

おむかえ保育

「決まった曜日だけ子どもを保育園に迎えに行けない。」「急遽夕方に打合せが入り、保育園のお迎えに間に合わない……」などで、困っていませんか。そんな研究者・学生のために、男女共同参画推進センターでは「おむかえ保育」を実施しています。運営は、民間企業に委託して実施しています。保護者に代わり、センターが委託している企業から派遣された保育者（シッター）が子どもを保育機関などに迎えに行き、男女共同参画推進センターで一時保育を行うものです。

保育場所	京都大学男女共同参画推進センター保育室
対 象 者	生後２ヶ月～小学校３年生までの子ども
利用資格	京都大学に所属する学生・常勤の教員、研究員（週 30 時間以上勤務、日本学術振興会特別研究員を含む）、医員、常勤の職員
定　　員	５名程度（兄弟姉妹、年齢構成により異なる場合があります。）

開 室 日	月曜日～金曜日
開室時間	17：00 ～ 22：00
利用料金	利用料金は、970 円～1,410 円（税込）／30 分（※時間帯により異なる） ・利用は２時間以上、30 分単位で受け付けます。 ・子ども１人についての料金です。 ・学生は保育料金のみ、大学が半額を負担します。 ・交通費・夕食等は別途実費が必要です。 ・状況により、その他手数料が必要です。

ベビーシッター利用育児支援

男女共同参画推進本部では、本学における教職員の仕事と子育ての両立支援を目的として、「ベビーシッター育児支援割引券」を発行して、ベビーシッターによる在宅保育サービス事業を行う者が提供するサービスを利用した場合に、その利用料金の一部を助成しています。

対象事業は以下の２つです。

① ベビーシッター派遣事業

② 双生児等多胎児家庭育児支援事業

アジア・アフリカ地域研究研究科の子育て交流室と子育て等支援の取り組み

アジア・アフリカ地域研究研究科は、本部キャンパス総合研究２号館内に「ASAFAS 子育て交流室」を設置しています。写真のとおり、部屋で子供を遊ばせながら勉強・研究をすることができますし、臨時託児所開設スペースとしても使用できます。

本研究科ではシンポジウム等で出張託児を行う費用もサポートしています。また育児・介護などの事情を抱えている人の研究補助や海外フィールドワーク支援も行っています。

子育てや介護を個人の問題にするのではなく、社会で支援することが大切であり、大学もその一部です。そこで研究科長以下教員・職員・学生らで取り組んでいます。一歩踏み出してみると、公費払いをはじめとして、大学制度の中でも意外とできることはありました。

子育て交流室は原則として本研究科関係者用ですが、他部局でも必要とされている方は利用できる場合もありますので、お問い合わせ等は研究科の子育てフィールドワーカーワーキンググループまで。

ML：kosodate@asafas.kyoto-u.ac.jp

HP：https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kosodate/

連載：研究者になる！－第 62 回－

ただ狂へ

文学研究科・教授　　金光 桂子

進路を決めたのは高校一年生の時だった。冬の夜空に光るさえざえとした月を眺めながら、ふと「文学部で古典文学を勉強しよう」と思い立った。なぜ突然そんなことを思いついたのか、今となってはよくわからない。ただ、さしたる理由もなくこの年頃にありがちな（？）無常観にとらわれており、明日どうなるかもわからない人生、好きなことをやらねば損だと思ったことは確かである。その先三十年も生き長らえると知っていたら、違う道を選んだかもしれない。

大学院への進学を志した時も、「研究者」という将来像をどこまで具体的に描いていたか、はなはだ疑わしい。ただ大学での学問がおもしろかったから、その楽しい時間を少しでも引き延ばしたかったに過ぎない。とはいえ、修士課程の二年間は決して楽しいことばかりではなかった。研究の難しさもようやくわかってきた頃だったから、お気楽に勝手なことを書いていればよかった卒業論文と違って、修士論文には難渋した。集めてきた資料が、どうしても一本の線につながらない。ついに修論の提出はほぼ諦めてしまい、ただ興味の赴くままに文献をあさっていた。あにはからんや、その時たまたま見つけたある資料が、すべてをつなぐミッシングリンクだったとは ── できすぎた話のようだが、実話である。

かくして無事に修論を仕上げることができ、博士課程への進学も決まった時、真っ先に浮かんだのは「これで三年間遊べる」という思いだった。将来への不安がないわけではないが、今心配しても仕方がない。学生でいられる三年間は、何も考えずに好きなことをやろう。というわけで、進学の決まった次の日から図書館にこもり、作品に注釈を付けることに没頭した。論文を書かねばならないという重圧なしに（書かねばならないのだが）ひたすら作品を読んでいたこの時期は、まさに至福の時だった。

しかし、そんな甘い考えは長くは続かない。その後、縁あってとある大学に雇っていただけることになり、学生の身分を離れることになった。それはもちろん大変ありがたい話なのだが、問題は、勤務先の諸々の事情により次の年までに博士論文を提出する必要が生じたことである。博士論文なんてまだずっと先の話とのんびり構えていた身としては、焦る以前に呆然とするばかり。その時藁にもすがる思いで引っ張り出してきたのが、かつて没頭して作った注釈である。注釈といっても勝手気ままなメモに過ぎない代物ではあったが、それを読み直し整理し膨らませることによって、なんとか博士論文の体裁を整えることができた。

以上が、私が研究者になった次第である。こう書きつらねてみると、ただ好きなことをやってきただけで、あとは思いつきと開き直りと偶然の産物で乗り切り、たいした努力もしていなければ特に悩みもなかったように見える。いや、たぶんその頃はそれなりに努力もしていたのだろうし、深刻な悩みもあったに違いない。しかし、その辺のことは不思議とあまりおぼえていない。今研究者をめざしている人たち、あるいはめざすかどうか迷っている人たちに対して、私が自分の体験から言えるのはこれしかないかもしれない。みなそれぞれ悩みは多いだろう。しかし、それもいずれは思い出せないほど遠い昔のことになる。だから安心して、今はしっかり悩んでほしい。それと同時に、自分が夢中になって楽しめることを存分に楽しんでほしい。

何せうぞ　くすんで　一期は夢よ　ただ狂へ

（閑吟集）

悩んでしかめっ面ばかりしていても仕方ない。「一期は夢」という無常観にあえて共感してもらおうとは思わないけれど、「ただ狂う」＝夢中になって遊ぶことができることは、研究者として必要不可欠の資質であるに違いないのだから。

Gender Equality Promotion Center

〒 606-8303　　京都市左京区吉田橘町
電話　　075（753）2437
FAX　　075（753）2436
E-mail　w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
HP　　http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/